

マイコプラズマ肺炎感染症診断マーカーの検討

○小暮 政雄,外池 千明(群馬中央医療生活協同組合 前橋協立病院)

はじめに

マイコプラズマ肺炎(以下マイコ)は、「オリーブ病」とも呼ばれ、4 年毎の大流行が確認されていたが、最近では毎年流行しており 2012 年度は、過去 10 年間で最大の流行であった。

マイコの主な診断法は、血清抗体価測定(PA 法、CF 法)、マイコ IgM 抗体迅速法、遺伝子検査法(LAMP 法)と胸部単純 X 線検査(以下 X 線)などがある。

今回、当院でも LAMP 法を外注ながら採用したのでこれを機会に、マイコの診断方法の有用性を検討した。

1.対象と方法

2012 年 9 月から 2013 年 2 月までの 6 ヶ月間に当院小児科を受診し、マイコが疑われた患者 299 症例を対象にした。

方法は LAMP 法(栄研化学)、PA 法(セロテック・MYCO II:富士ビバ)、X 線、CRP、白血球数、白血球像で検討した。

2.結果

ペア血清の PA 法 28 例中 15 例(53.6%)で 4 倍以上の上昇があり、LAMP 法では 11 例中 6 例(54.5%)で陽性だった。X 線では 28 例中 27 例(96.4%)に肺炎像が認められた。内訳は、

右上葉 1 例、右中葉 16 例、右下葉 2 例(右肺 70.4%)、左上葉 6 例、左下葉 2 例(左肺 29.6%)で右肺炎が優位であった。初診時の血液検査は、CRP 2.6 ± 2.0 mg/dl で最高値 7.1mg/dl と軽度の異常であった。白血球数 $83.8 \pm 31.3 \times 10^2 / \mu\text{l}$ で最高値 $15200 / \mu\text{l}$ と軽度の異常であったが、 $4000 / \mu\text{l}$ 以下が 4 例(14.3%)もあった。白血球像の好中球 $59.6 \pm 14.4\%$ で 80% 以上は 3 例(10.7%)であった。リンパ球 $27.5 \pm 12.1\%$ で 40% 以上は 4 例(14.3%)であった。ペア血清以外で PA 法値が 160 倍以上の 12 例では、CRP 1.2 ± 0.5 mg/dl、白血球数 $78.5 \pm 27.0 \times 10^2 / \mu\text{l}$ 、好中球 $54.2 \pm 0.55\%$ 、リンパ球 $33.4 \pm 2.5\%$ であった。全例で LAMP 法陽性で、X 線では肺炎像を認めた。この間の LAMP 法の総検査数は 158 例で、うち陽性 71 例(44.9%) 陰性 87 例(55.1%)であった。

3.考察

マイコにおける LAMP 法は、感度 95%、特異度 100%と確定診断には有用である。PA 法や X 線は迅速であるが、マイコ IgM 単独では診断法として不適切である。マイコ抗原キットが発売されたので今後期待したい。